

●ヒナの成育

親との絆

巣にいる間はどのヒナも親から十分に餌をもらって、小さい間は羽根の下に抱かれて親鳥のぬくもりを感じながら育ちます。大きくなるにつれて、イヌワシとして生きていくための教育を受けます。

親からエサをもらうところ



人工保育

ヒナが親鳥との関係を保ちながら成育するには、人工保育の間とにかく人に馴れ過ぎない事、イヌワシとしての自覚を失わない事が重要となります。そのために、環境づくりや餌の与え方を工夫しました。



餌を与えているところ↑



〈東京都多摩動物公園のご好意でお借りしたパペット↑〉

人の姿が見えないように、厚手の布で覆った保育器の中でヒナを育てます。餌を与える時も、保育器上部の小さな穴から中の様子をうかがいながら、イヌワシの頭に似せた人形“パペット”を使います。



保育器の中の様子

温度や湿度の管理はもちろんですが、ヒナが親鳥や巣の事を忘れないように、巣内と同じ環境の音を流し続けます。



●無事育った3羽のヒナ

ヒナがケンカする習性は幼い時に激しく、成長するにつれて収まっていくと考えられています。ローテーション育雛法によってケンカを避けながら育った3羽のヒナ達は、5/23、ふ化後39-47日経ってようやく巣の中で同居させることができました。あとは親の愛情をたっぷり受けながら成長して、すべてのヒナが“イヌワシとして”巣立ってくれることを心から願っています。

(6月29日 無事3羽とも巣立ちました。)

巣の中で同居した3羽のヒナ